



医療相談室から

地域医療連携室 社会福祉士

石川 文代

皆さんは、医療ソーシャルワーカー（MSW）という職業をご存知でしょうか。患者さんやご家族の不安や悩みに対して、社会福祉の立場から、相談援助する専門職です。病気やけがをした時、治療に対する不安を持つことは当然のことながら、「明日からの仕事をどうしようか」、「医療費の支払いができるだろうか」、「自宅で介護できるだろうか」など、さまざまな生活上の問題までも抱えることとなります。

MSWはこのような生活上の問題を解決し、患者さんが安心して療養できるように、医師や看護師、リハビリ技師など他職種と共に、医療チームの一員として相談援助をしています。また、必要に応じて、行政機関や施設、介護支援専門員などの関係機関と連携しています。患者さんの多くは、介護保険や年金などの社会保障制度の手続きに戸惑われます。また、自宅以外の療養先を探さなければならぬ安心して過ごしてもらうため、適切な時期に適切な手続きがで

きるよう援助しています。

土岐市では、国が進める地域包括ケアシステム（医療、介護、住まい、予防、生活支援を日常生活の場で一体的に提供できる地域での体制）の構築を推進しています。当院においても、退院調整看護師を配置し退院支援の体制を整え、次の療養生活の場で医療・看護が継続でき、地域において安心して生活ができるよう、関係機関との連携を強化しています。また、昨年8月には、地域包括ケア病棟を開設しました。急性期治療後の在宅療養に不安を抱える患者さんを対象に、在宅環境に合わせたリハビリや自宅環境整備などの在宅復帰支援を、他職種と共に行っています。

当院には、MSWとして社会福祉士が3人配置されています。患者さんが置かれている状況は一人一人異なり、心理的・社会的・経済的問題など抱えている悩みは複雑かつ多様です。お話をゆっくり伺いながら、問題を整理し、不安や戸惑いを少しでも軽減できるようサポートしています。

市長の部屋から

6月8日(月)

岐阜県が進める、清流の国ぎふ森林・環境税を活用した環境保全モデル林整備事業に「土岐高山城跡の森」が選ばれ、整備に関する協定を岐阜県と締結しました。

今年度、土岐津町高山地内の森に活動拠点や散策路などが整備され、史跡巡りに訪れる観光客が散策する森として、また、里山体験、環境学習を通じた市民の皆さんの交流の場として今後活用されることが期待されます。



高山城高山宿史跡保存会、土岐里山の会、高山区自治会、土岐津町青少年育成会の4つの町づくり団体の皆さんから里山活用の提案を頂いたことで、昨年、県の環境保全モデル林整備事業に選定され、今回の協定締結となりました。

今後は、「土岐高山城跡の森」に地域の皆さんや観光客が多く訪れ、また、里山の恵みを受け、ふるさとの絆を育んでいけるような地域のシンボルとなるよう、町づくり団体の皆さんのご協力を得ながら活用していきたいと思えます。

土岐市長 加藤靖也

